

## 旧交番の保存と経緯について

### 品川宿の宝を残す

都内の古い交番が建て替えられていく中で、アール・デコ調の意匠を残した交番として、極めて貴重なものであろう。また、南側の外壁が昔からの地割に沿い、天王横丁（荏原神社の参道）の名残をとどめていることは、歴史的文化的財として価値が高いと言える。

建物は、洋風洗い出し仕上げ（日本伝統の左官技術）で、縦長の本製上げ下げ窓が特徴的である。

令和3年度の改修にあたっては、出来るだけ建設当時（昭和4年頃）の状態を再生しながら、耐震補強を行うことで、今後もまちの賑わいに貢献する建物として、未来に残していくことを一番の目的とした。



### 左官洗出施工

昔ながらの意匠を復元するため  
目地棒を使用して施工



柱や土台の腐食は思った以上に激しかったが、慎重にそして丁寧に行われた補強工事により、十分な強度を得た。また、過去に付け加えられた部材を撤去したことで、内外とも建設当時の塗装色が現れ、建具などの色についても根拠のある再生となった。

外壁の洗い出し仕上げ、修理された建具類、一部天井の黒漆喰左官仕上げなどの全ての改修作業において、素晴らしい職人達の手によって美しい旧交番の姿が甦った。

旧交番は、古から「道」と「水」の交差点に佇み、今もまちを見守り続けている。地元にとって未来に残したい大切な宝である。

今回、この歴史的価値のある旧交番の修景により、国登録有形文化財（現在、申請中）となる。水運の歴史から始まり、現在では水辺を活かした観光拠点として、新しい可能性を示す品川宿の新たなランドマークになるだろう。

### 黒漆喰天井 解体中に黒漆喰のむくり天井が現れたため復元



### 腐食の激しい柱や土台 土台を取り替え、柱の大部分を交換



昔も今も この地で  
まちと水辺を見守る



## 南品川櫻河岸



## まちなか観光案内所

(通称)  
旧交番



## 旧交番の歴史と概要

### 東海道と水辺のクロスポイントに佇む 昭和4年(1929年)竣工の建物

品川駅から南に1kmほど歩いてくると品川宿に入る。江戸時代からの道幅を保つ東海道が、北品川から鈴ヶ森まで約4kmに渡って残っている。残念ながら、現在の東海道の風景は、時代の流れを反映した姿にはなっていないが、宿場町としての風情を多少なりとも感じることができる場所である。

旧交番は、その東海道と目黒川が交差する場所に建つ。

明治14(1881)年に設置され、移築される昭和2(1927)年まであった、城南地域61宿町村を管轄する品川警察署の敷地南東端に位置する。

右下の写真(写真集『セピア色の品川』より)を見ると、現在の城南信用金庫(旧交番の目の前)の位置に金網製作所の看板があることから、昭和22(1947)年以前と推測できる。橋の中央、樹木の向こうに旧交番の姿が見える。



### 南品川桜河岸 まちなか観光案内所 (通称:旧交番)

所在:品川区南品川1丁目3-4  
(地番:南品川1丁目223番5)

近隣商業地域、準防火地域、  
建蔽率80%、容積率300%

構造・規模:木造平屋建て  
13.49m<sup>2</sup>、最高の高さ3.34m



昭和の品川橋の様子  
(写真集『セピア色の品川』より)

※本文は『品川警察署百年史』などの資料を参考にまとめたものです。

### 旧交番の変遷

昭和2年	目黒川改修工事に伴い、品川警察署が東海橋南東側の南品川宿308番地へ移転(本紙中面マップを参照)
昭和4年頃	地元の働きかけもあり、品川橋交通待機所が竣工
昭和9~29年	地元の交番、品川橋派出所として親しまれた
昭和35年~	品川交通安全協会として使用
平成9~令和2年	桜心会町会の倉庫として活用
令和2年4月	品川区が東京都から取得
令和4年4月	「南品川桜河岸~まちなか観光案内所」としてリニューアルオープン

※現在、国登録有形文化財として申請中

旧交番は、地元町会の交通安全週間の拠点として、また、さまざまな映画やドラマの撮影地としても活用され、長きにわたり地元から愛され今に至っている。

この建物の価値について、町会をはじめ、商店会、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会がいろいろな形で情報発信を続けてきた。その活動が実を結び、令和3(2021)年に品川区の建物として修景事業を行い、現在の姿となった。

## ロケ地となった作品

亀梨和也、山下智久主演『野ブタ。をプロデュース』  
松田翔太、戸田恵梨香主演『라이어ゲーム』  
渡瀬恒彦主演『新・警視庁捜査一課9係』  
亀梨和也、杏主演『妖怪人間ベム』  
松山ケンイチ、満島ひかり主演『ど根性ガエル』  
高畑充希主演『過保護のカホコ』ほか多数



- 開館時間 月・木・土 10:00~17:00
- 定休日 日・火・水・金・年末年始  
(連休などで変更の場合あり)

発行:品川区/一般社団法人しながわ観光協会  
制作・編集:旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会、  
品川区景観アドバイザー、桜心会町会  
協力:品川宿場通り南会、品川青年会



(-出しながわ観光協会)



発行日:2023年3月

# 中世～近世

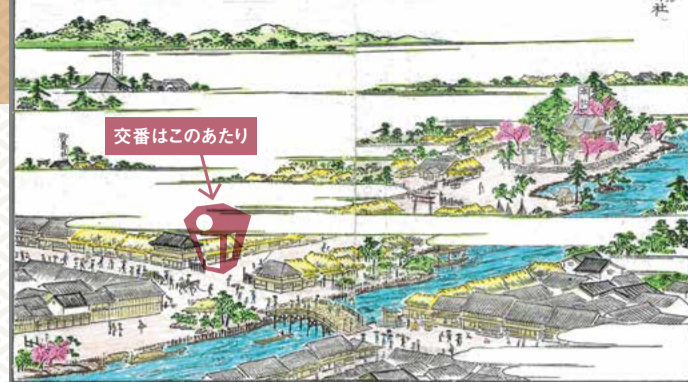
問屋場・本陣・脇本陣・高札場

## 鎌倉仏教との結びつき 寺町として発展をとげる

【中世】源頼朝の御家人、品河清実の土地開発で発展したまちに、鎌倉仏教が進出して多くの寺院が建立された。その後、海運で財を成した伊勢・熊野出身の豪商である鈴木道胤と榎本道琳らが、妙国寺や海晏寺の再興に寄与し、都市形成に大きく貢献した。心敬僧都ら連歌師の来訪も多く、句会も開かれ文化面も発展した。

【近世】徳川家康が江戸に入府し、国づくりの一環として五街道を整備した。品川宿は、江戸と京・大阪を結ぶ大動脈東海道の親宿として、参勤交代や社寺参詣の旅人を支える役割（本陣・脇本陣・問屋場・旅籠・茶屋など）を果たす。また、江戸時代中期以降、庶民の物見遊山（現在のまちあるき観光）の旅人が盛んになり、品川は海をのぞむ景勝地として、浮世絵や図会に描かれ名所化する。

現品川橋周辺と貴船明神社（現在の荏原神社）の様子（『江戸名所図会』より）



## 旧交番の地歴を 紐解いてみたら 水運と道の 交差点として栄えた まちの風景が みえてきた



昭和2年、目黒川改修工事で移転。写真は移転前（明治時代）、品川橋南詰の頃の品川警察署（明治43年発行『東京名所図会』より）



品川区役所（昭和9年竣工時／竣工記念冊子より）

- 中世（鎌倉～室町時代）
- 近世（江戸時代）
- 近代（明治～昭和初期）
- （現在は存在しないもの）

※本マップは「品川宿新旧街並み図品川宿調査報告書」（昭和52年3月発行）などの資料を参考にまとめたものです。



品川郵便局（右）と海老原商店・明治火災保険品川代理店（個人所蔵写真）

## 近代産業発展の中心に旧交番が佇んでいた

明治維新後、産業の西欧化が進む中、水運に恵まれた目黒川流域に新産業の工場が建設され、京浜工業地帯形成の先駆けとなった。明治、大正～昭和初期にかけて、都市機能が充実し、行政・金融機関の拠点となった。また、宝来館、品川座など寄席・劇場・映画館の娯楽施設も多くあった。

## 歴史・文化の面影を残しつつ 水辺を活かした観光拠点へ

目黒川沿いには、全国的に有名な桜並木や神社仏閣、目黒・五反田・大崎といった繁華街が点在している。運河が交差する天王洲エリアでは、現代アートの鑑賞や水辺に浮かぶレストランでの食事など、水辺を楽しむ新たな観光拠点として発展している。

## 現代



鎮守橋から運河方面を望む